

JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン=フランソワ・ミレー(1814~1875)



肥料を取り込む農夫

エッチング・DEL'ART M11(ミレーのカタログレゾネ)

1855 年作

16.3×13.3cm

バルビゾン七星派 ・ 真の農民画家

JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン＝フランソワ・ミレー (1814~1875)



作品名 肥料を取り込む農夫(1855年)

種類 エッチング・DE L'ART M11

サイズ 16.3×13.3cm

略 歴

- 1814 ノルマンディ地方、グリュシーの裕福な農家に生まれる。
- 1837 ラングロワの推薦によりシェルブール市の奨学金を得てパリへ
- 1840 友人の父を描いた肖像画『ルフラン氏の肖像』がサロンに初入選
- 1846 後のバルビゾン派のトロワイヨン、ディアズ、ジャック、ルソーらと出会う。農村をテーマとした新しい作風に変化していく
- 1853 サロンに『種をまく人』を出品
- 1855 パリ万博に『接ぎ木する人』を出品し好評
- 1855 エッチング作品を制作
- 1857 サロンに『落ち穂拾い』を出品
- 1859 依頼により『晩鐘』を制作。
- 1862 パリ公会堂での美術家連合サークル展に『井戸から戻る女』を出品し評判となる
- 1864 『羊飼いの少女』がサロンで一等賞を受賞
- 1868 レジオン・ドヌール勲章を受章
- 1870 既に米国に収集家があり、デュラン＝リュエルが主要画商となる
- 1875 バビルゾンにて死去。友人ルソーと墓地を隣にして埋葬

この収穫物を運ぶ台車の主題は、ミレーの農民画に初期から登場し(《野良からの帰り》1846-47年、クリーブランド美術館)、《晩鐘》(1859年オルセー美術館)にも描かれているお馴染みのモチーフでもある。ミレーのエッチングの技術はこの作品あたりから急に技量が発揮され出し、人物の彫刻的立体感や背景の陰影の付いたグラデーションが、繊細で軽やかなエッチングの線により見事に再現される